

ジェンダー平等ミーティング

令和5年度
若い世代からの
ジェンダー平等
推進事業

2月10日(土)テーマ

「古典文学をジェンダー史で読む」



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



「古典文学をジェンダー史で読む」

講師：京樂 真帆子 さん
(滋賀県立大学教授)

- 紫式部の職場環境
 宴の席でのハラスメント
- 藤原公任
 源氏物語は男性も読んでいたことが分かる
- 清少納言の愚痴
 男社会
 活躍した清少納言ですら愚痴を言うほど
- 紫式部の苦悩
 漢字を書けないフリをしなくてはいけない

「古典文学をジェンダー史で読む」

講師：京樂 真帆子 さん
(滋賀県立大学教授)

- ・「女性によるアンコンシャスバイアス」にとらわれていた
→ジェンダーバイアスと闘って勝った人たちが歴史に名を残している

- ・和泉式部の評価の変化
子育てしながら働き、恋愛もした人

時代によって和泉式部の評価はどんどん変わっていった
→和泉式部研究が進んだわけではない
変わったのは社会であり、ジェンダー

和泉式部に何と声をかけますか？

- ・今は自分らしく生きられるようになっていきますよ
- ・ゆるく、自由になってきています
- ・地位は関係なくなってきました
- ・今でも不倫はダメ
- ・恋多き人生だったのですね

→ジェンダーバイアスがそれほどきつくはなくなり、自分らしさを発揮できるようになってきているのは素晴らしいこと
しかし、だれもがといわれると・・・

私たちはこの社会でどうしていけばいいのか

- ・1人ひとりがジェンダーバイアスをなくしていく
- ・ジェンダーの認知度を上げていく
 - 映画の上映
 - 考える機会を増やしていく

→社会で
家庭で
友だち同士で

もっとジェンダーについて語り合う、教え合う

感想

- ・今回は古典的な視点からジェンダーについて知ることができました。和泉式部さんは今の時代を生きていたら少しは過ごしやすい世の中であったのではないかと感じました。
- ・平安時代の日本と今の日本では、だいぶ進化してきていると思いました。昔は堅苦しい感じで厳しそうだけど、今は自由で好きに暮らせると感じました。
- ・いつもよりテーマが難しく、話し合いがきちんとできたかは怪しいですが、現代だけでなく古典から学べるジェンダーの視点が面白かった。ジェンダーの概念が無いと思っていたので、現代と変わらないような価値観が見えるところや時代と共に変化していくのが興味深く感じた。

感想

- ・古典文学という、難しい視点から学ぶジェンダーは今までのミーティングよりも新たな視点からの発見が多くありました。また、講師の方のお話が分かりやすくてよかったです。さらに、私たちが考えたできることには、すぐ実践できることが多くあり勉強になりました。
- ・古典文学をジェンダーという観点から見ると新しい発見があることがわかった。平安時代でもスキャンダルや職場での出会いがあることに驚いた。
- ・1000年前の女性の苦勞がうかがえて、今の世の中はとても理解ある世の中になったと思いました。昔の女性が現代で活躍できたらどれだけ自由に過ごせただろうかと思いました。

感想

- ・古典文学からジェンダーを考えることがなかったので新鮮でした。故人に語りかけるという新鮮な体験ができました。
- ・古典は苦手ですが、現代語訳も合わせて分かりやすく解説してもらえたので、古典への苦手意識が少し無くなりました。現代でもジェンダー不平等な課題が残っているので、自分でできることを考えて変えていきたいと思いました。
- ・和泉式部は初めてしっかりと生い立ちなどを聞いたけれど、歴史を重ねるごとに内容（評価）が変わっていて、随分違う人物になってしまって驚きました。
- ・昔と比べると生活しやすいと感じますが、まだ、偏見的な考えを持っている人もいるため、お互いに認め合っていくことが大切だと思います。